

3 育てたい資質・能力について

(1) 育てたい資質・能力の設定

各校では、「総合的な学習の時間」において、児童生徒にどのような資質・能力を育てたいとしているか質問した。

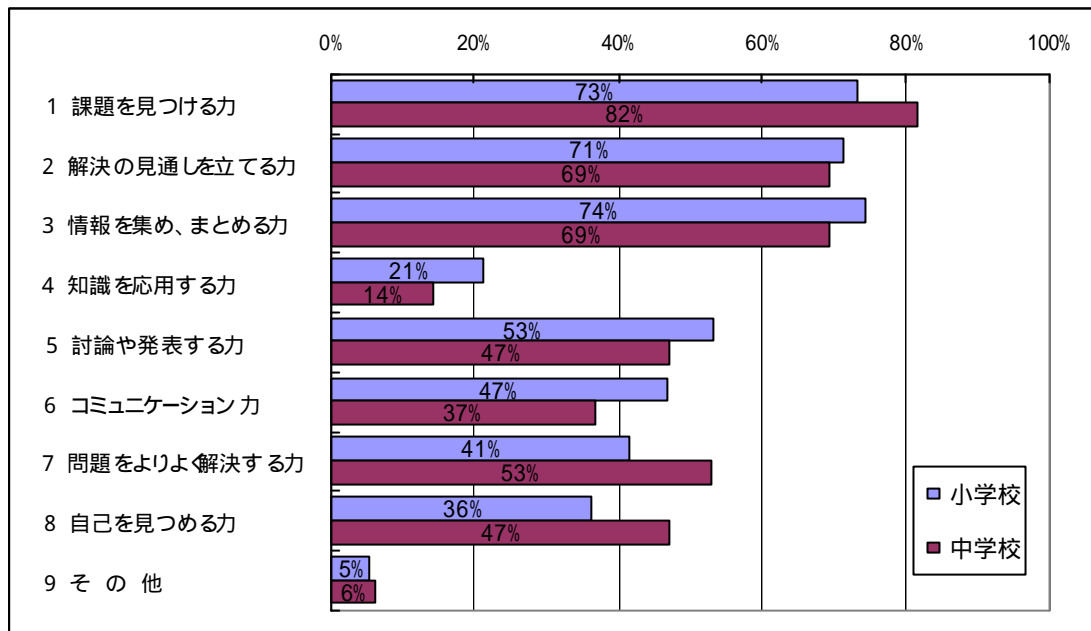


図3 「総合的な学習の時間」で育てたい資質・能力（複数回答）

結果

小・中学校とも回答の割合が高かった項目は、「課題を見つける力」(小73%、中82%)「解決の見通しを立てる力」(小71%、中69%)「情報を集め、まとめる力」(小74%、中69%)である。逆に、割合が低かったのは、「知識を応用する力」(小21%、中14%)であった。

考察

「総合的な学習の時間」においては、問題解決的な学習の進め方が重視されている。児童生徒が主体的、意欲的に学習を進めていくためには、自己の内から発する切実な思いをもって課題と向き合い、自分なりに解決の見通しを立てたり、解決に必要な情報を集め、まとめたりする力が必要となってくる。このため、小・中学校とも「課題を見つける力」や「解決の見通しを立てる力」「情報を集め、まとめる力」の育成に重点が置かれたものと思われる。

(2) 育てたい資質・能力の設定で基にしたもの

次に、育てたい資質・能力を設定するのに、主に何に基づいて具体化したか質問した。

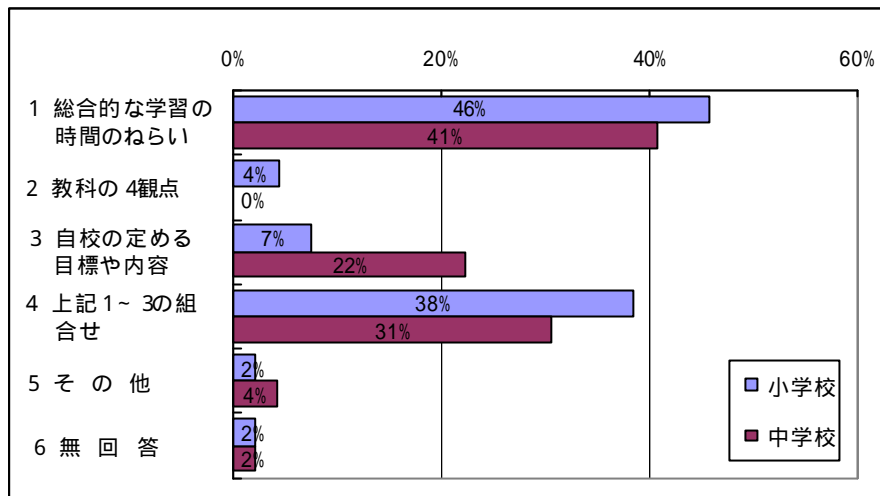


図4 「総合的な学習の時間」における育てたい資質・能力の設定で基にしたもの（複数回答）

結果

「総合的な学習の時間のねらい」に基づいて具体化したという回答が、小学校で46%、中学校で41%あり、「総合的な学習の時間のねらいと教科の4観点、自校の定める目標や内容」を組み合わせで設定したという回答が、小学校で38%、中学校で31%あった。また、「自校で定める目標や内容」に基づいて設定したという回答では、小学校7%、中学校22%と差が見られた。

考察

育てたい資質・能力の設定に際してこのような傾向が見られたのは、各学校の実態の違いや特色のあらわれと考えられる。特に、小学校に比べ中学校において「自校の定める目標や内容」に基づいて設定された割合が高いのは、学校の特色や独自性を一層あらわそうとしたためと思われる。